

平成29年度学校評価について

- ・学校評価については、教職員に対するアンケート等による自己評価や生徒や保護者を対象に実施する外部アンケート、学校評議員等による学校関係者評価を実施している。
- ・今年度の学校評価アンケートも昨年度同様、常勤の教職員全員と全学年全クラスの生徒・保護者について実施した。
- ・生徒・保護者に関して学年別に集計も行い、各学年における成果と課題の分析ならびに全学年の分析から、昨年度との比較を行うなか成果と課題について検討した。
- ・中間評価（10月）は、自己評価のみを学校および教育委員会のHPで公表。年度末の総合評価については、自己評価および学校関係者評価を公表することとなっている。

平成29年学校評価アンケートの結果から

（1）教職員による自己評価に見られる特徴

昨年度、B評価はなかったが、今年度は1項目につきB評価があった。さらにA評価ながら肯定的評価の割合が比較的低い項目、あるいは昨年度からポイントが下がった項目が昨年度より増え、各々の職員が、新たな学校の体制づくりに向かう中で深く課題を認識しているといえる。

・B評価であった項目

⑩事務管理「施設・設備面で安全管理を充分に行っている」

平成28年度 A89% → 平成29年度 A58% （31%減）

校舎の老朽化や多雨による雨漏り、夏場の冷房対策、さらに3階トイレの不足等、伝統的な建築物ならではの施設に関する課題を感じているようである。資金的な裏打ちが必要な部分が多いが、事務部とも連携し可能な限り環境整備には努めていきたい。

・肯定的評価の割合が昨年度と比べて10%程度以上の増減のあった項目

（増加）

④その他 「SPH事業の取り組みを通して、大学との連携を推進し商業高校としての専門教育の充実・発展と進路意識の向上を図っている。」

平成28年度 A79% → 平成29年度 A95% （16%増）

SPH研究指定校になったことを機会とし、近年停滞していた滋賀大学経済学部との連携事業を積極的に行った結果といえる。1月16日には、高崎商科大学と高崎商科大学と高齢連携協定を結び、HAUL-A (Highschool And University Link for Accounting) プログラムに参加することとなった。今後も生徒のモチベーションを高めるため、これらの大学との連携をより強化し、充実させていく必要があると考えている。

（減少）

④その他 「長期・短期留学制度の充実等を図り、国際理解教育を推進している。」

平成28年度 A98% → 平成29年度 A88% （10%減）

本年度の海外短期研修はロンドンの予定であったが、現地の情勢不安などもあり最終的に実施ができなかったことが、このような結果になった要因一つと考えている。

（2）生徒アンケートに見られる特徴

B評価は昨年度と同じく23項目中2項目であった。

ただし、A評価ではあるが比較的低い80%未満である項目は7項目ある。

・B評価 … 2項目（23項目中）

⑦保健安全「課題を抱える生徒の早期発見に努め、生徒が相談できる体制づくりや研修を行っている。（アンケート質問：担任の先生をはじめ、学校の先生に気軽に相談することができる）」

平成28年度 B70% → 平成29年度 B69% （1%減）

⑩事務管理「施設・設備面で安全管理を充分に行っている（アンケート質問：学校の施設設備は安全である）」

平成28年度 B80% → 平成29年度 B69% （11%減）

・ A評価ではあるが、肯定的評価の割合が80%未満の項目

- ④進路指導「進路情報を提供し、適切なアドバイスを行っている。(進路にかかわる資料が整っており、進路についての適切なアドバイスを受けている)」
平成28年度 A80% → 平成29年度 A79% (1%減)
- ⑥図書館「図書に親しみ、読書の習慣をつけさせるための工夫を凝らした指導をしている。(アンケート質問：図書館は生徒が図書に親しみ、読書の習慣が身につくようにはたらきかけている)」
平成28年度 A80% → 平成29年度 A78% (2%減)
- ⑧人権教育「人権教育を推進するために、1年を通じて指導の計画を立て、人権意識の高揚を図っている。(アンケート質問：LHRなどで人権問題について深く考える機会がある)」
平成28年度 A83% → 平成29年度 A77% (6%減)
- ⑩その他「SPH事業の取り組みを通して、大学との連携を推進し商業高校としての専門教育の充実・発展と進路意識の向上を図っている。(アンケート質問：大学との連携などで専門的な教育や助言を受け、進路意識の向上に役立っている)」
平成28年度 A81% → 平成29年度 A76% (5%減)
- ⑪その他「長期・短期留学制度の充実等を図り、国際理解教育を推進している。(アンケート質問：国際交流が盛んにおこなわれ、異文化理解に役立っている)」
平成28年度 A79% → 平成29年度 A76% (2%減)
- ⑫その他「課題研究を通して自ら考え、発信できる人材・起業家養成を行っている。(アンケート質問：課題研究を通じて、さまざまな人たちとの交流ができています(3年生のみ回答))」
平成28年度 A75% → 平成29年度 A77% (2%増)

・ 肯定的評価の割合がB評価からA評価に変わった項目

- ①学校経営「学校経営方針のもと、全職員が協同体制をとって学校経営を行っている(アンケート質問：学校全体の目標をわかりやすく教えてもらっている)」
平成28年度 B74% → 平成29年度 B76%

(3) 保護者アンケートに見られる特徴

保護者アンケートにおいては、全体的に肯定的評価の比率が低い傾向がある。特に、学習指導や進路指導に関わる項目での評価が厳しい。

B評価は23項目中2項目で、昨年度より1項目減少しているが、その2項目は昨年度同項目であり、今後重点的に改善すべき点となっている。

・ B評価 … 3項目(23項目中)

- ②学習指導「授業時数を確保し、わかる授業・深く考えさせる授業に向けて授業改善や計画的な授業の展開を行っている。(アンケート質問：子どもは、検定への挑戦など授業が工夫されていてわかりやすいといっている)」
平成28年度 A73% → 平成29年度 B72% (1%減)
- ④進路指導「進路情報を提供し、適切なアドバイスを行っている。(アンケート質問：学校は進路情報を提供し、家庭との意思疎通を積極的に行っている)」
平成28年度 B70% → 平成29年度 B70% (増減なし)

・ B評価からA評価に変わった項目

- ⑥その他「SPH事業の取り組みを通して、大学との連携を推進し商業高校としての専門教育の充実・発展と進路意識の向上を図っている。(アンケート質問：学校では、大学との交流が盛んに行われている)」
平成28年度 B70% → 平成29年度 A76% (6%増)

・ A評価ではあるが、肯定的評価の割合が80%未満の項目

- ⑥図書館「図書に親しみ、読書の習慣をつけさせるための工夫を凝らした指導をしている。進路情報を提供し、適切なアドバイスを行っている。(アンケート質問：図書館は、読書習慣を身につけさせるよう工夫を凝らした指導をしている)」

平成 28 年度 B 7 5 % → 平成 29 年度 A 7 8 % (3%増)

⑦保健指導「課題を抱える生徒の早期発見に努め、生徒が相談できる体制づくりや研修を行っている。(アンケート質問：先生は、子どもの悩み等について気軽に相談に応じてくれる)」

平成 28 年度 B 7 7 % → 平成 29 年度 A 7 8 % (1%増)

⑨環境教育「ごみの分別・計量、節電等省エネに努め、環境問題への意識の向上に努めている。(アンケート質問：子どもは、節電やゴミの減量をこころがけ、環境に配慮している。)」

平成 28 年度 B 7 7 % → 平成 29 年度 A 7 7 % (増減なし)

⑨その他「施設・設備面での安全管理を充分に行っている。(アンケート質問：学校は、施設・設備面での安全管理を充分に行っている。)」

平成 28 年度 B 8 3 % → 平成 29 年度 A 7 6 % (7%減)

◇B評価の項目が、昨年に続き学校にとって最も重点を置くべき「学習指導」と「進路指導」であることは大きな問題である。よりよい「学習指導」「進路指導」の実現に向けて、個々の力とともに全体で協議する必要がある。

◇保護者の学校評価アンケートにおいて、全体的に肯定的評価の割合が比較的低い数値となった原因の一つとして、次のようなことも考えられる。

- ・学校で様々な取組を行っても、保護者に伝わっていないことや正しく伝えられていないことが多い。
- ・本校に対する期待が大ききく、子どもから聞いたり学校から伝えたりしている内容との間の差が大ききく、期待と現実とのずれが生じ、このことが肯定的評価をする保護者の割合の低下に繋がっている。
- ・上記の課題の解決策としては、学校ホームページをこれまで以上に活用することや保護者向けの情報を発信する機会を増加させることが必要であると考えられる。また、生徒個人に関わる内容については、担任をはじめとする関係教員から保護者への連絡を今まで以上に密にし学校の様子をより細かく保護者に伝えていくことや、生徒や保護者の抱える学習・進路・精神面等での相談を受けやすくする工夫が必要である。

(4) 学年別(生徒・保護者)のアンケート結果の比較から見られる課題(右表参照)

第1学年

1年生では他の学年に比べ保護者にB評価が7項目も上がっている。このことは、中学校時の指導に比べ高校では、保護者と学校との距離が遠く様々な情報が生徒の段階で止まってしまい保護者まで届かないことが多いのではないかと考えられる。今後とも必要な情報が、保護者に届くよう学年団を中心に連絡をより密にしていく必要がある。特に、進路情報に関しては1年時より意識持たれている保護者が多く、進路ガイダンスの取組などを保護者にも何らかの方法で伝えるとともに、必要な情報をオープンにしていく体制が必要であるといえる。

第2学年

2年生を見ると生徒にB評価が7項目上がっている。高校生活も2年が経過し学校生活の中心になる時期に当たり、学習や進路に関して意識高く問題意識を持っているのではないかと考えられる。いよいよ進路決定を控え、進路や自分の在り方を考える時期に学年団を中心に生徒に対し親身に寄り添い、適切な助言と情報を与えることを心掛ける必要がある。

第3学年

3年生を見ると生徒・保護者ともにB評価は、それぞれ1項目であった。進路決定の学年になり、進路決定に向けて担任等と懇談をするなど学校と接する機会も多くなり学校の状況を知ってもらえる機会が増えたためと考える。保護者で高大連携に関する項目がB評価となったのは、「高大連携事業」が、現2年生向けの実施であったためと考える。

重点評価項目	生徒						保護者					
	1年		2年		3年		1年		2年		3年	
学校経営方針のもと、全職員が協働体制をとって学校経営を行っている。	83%	A	69%	B	77%	A	84%	A	85%	A	88%	A
地域や生徒・保護者の願いを踏まえ、特色ある教育活動を積極的に推進している。	97%	A	95%	A	99%	A	90%	A	90%	A	89%	A
学習の基礎基本の確実な定着のために、個に応じたきめ細かな指導を行っている。	83%	A	75%	A	86%	A	75%	B	82%	A	84%	A
授業時数を確保し、わかる授業・深く考えさせる授業に向けて授業改善や計画的な授業の展開を行っている。	83%	A	73%	B	89%	A	67%	B	66%	B	81%	A
礼儀正しい言葉遣いと挨拶を身につけさせている。	94%	A	95%	A	96%	A	96%	A	98%	A	95%	A
頭髮・服装の乱れを正し、基本的生活習慣の確立を図っている。	97%	A	96%	A	95%	A	97%	A	97%	A	94%	A
いじめの未然防止と早期発見に努め、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。	92%	A	96%	A	95%	A	83%	A	91%	A	84%	A
生徒の進路に応じて、より高度な学力を身につけさせるとともに、資格を取得させている。	83%	A	81%	A	87%	A	91%	A	91%	A	91%	A
生徒の進路希望実現のために、1年次より系統的な進路指導・ガイダンスを行っている。	92%	A	86%	A	89%	A	90%	A	88%	A	88%	A
進路情報を提供し、適切なアドバイスを行っている。	76%	A	74%	B	87%	A	68%	B	65%	B	76%	A
部活動により、学校活性化を図っている。	85%	A	83%	A	92%	A	88%	A	88%	A	89%	A
生徒会活動により、生徒が自主的に計画や運営ができるよう指導をしている。	91%	A	91%	A	87%	A	94%	A	97%	A	88%	A
図書に親しみ、読書の習慣をつけさせるための工夫を凝らした指導をしている。	75%	B	77%	A	82%	A	75%	B	78%	A	82%	A
一人ひとりが健康で明るく豊かな生活が送れるよう指導・援助を行っている。	92%	A	96%	A	96%	A	89%	A	96%	A	92%	A
課題を抱える生徒の早期発見に努め、生徒が相談できる体制づくりや研修を行っている。	68%	B	66%	B	73%	B	71%	B	83%	A	81%	A
全ての教育活動において人権尊重の視点に立った教育を推進している。	92%	A	91%	A	94%	A	90%	A	92%	A	91%	A
人権教育を推進するために、1年を通じて指導の計画を立て、人権意識の高揚を図っている。	76%	A	73%	B	81%	A	84%	A	93%	A	92%	A
毎日の清掃を徹底させ、学校環境を清潔に維持している。	83%	A	88%	A	90%	A	86%	A	93%	A	91%	A
ごみの分別・計量、節電等省エネに努め、環境問題への意識の向上に努めている。	78%	A	80%	A	86%	A	68%	B	81%	A	81%	A
施設・設備面での安全管理を充分に行っている。	64%	B	64%	B	78%	A	71%	B	79%	A	79%	A
SPH事業の取り組みを通して、大学との連携を推進し商業高校としての専門教育の充実・発展と進路意識の向上を図っている。	77%	A	75%	A	76%	A	80%	A	73%	B	74%	B
長期・短期留学制度の充実等を図り、国際理解教育を推進している。	76%	A	73%	B	78%	A	80%	A	84%	A	87%	A
課題研究を通して自ら考え、発信できる人材・起業家養成を行っている。					77%	A	85%	A	87%	A	85%	A

(5) 3者のアンケート結果の比較から見られる課題

○3者ともB評価であり、特に課題があると思われる項目 …… なし

○3者のうちの2者がB評価であり、また、教員の自己評価との差も大きく課題があると思われる項目

⑩事務管理「施設・設備面で安全管理を充分に行っている」

アンケートの質問：(生徒)「学校の施設設備は安全である」

(保護者)「学校は、施設・設備面での安全管理を充分に行っている」

教職員 B (58%)、生徒 B (69%)、保護者 A (76%)

○教職員と生徒または保護者の肯定的評価の差が大きく、課題が含まれていると思われる項目
(教職員と生徒、教職員と保護者の評価の差の合計が20ポイント以上のもの)

②学習指導「学習の基礎基本の確実な定着のために、個に応じたきめ細かな指導を行っている。」

アンケートの質問：(生徒)「基礎から高度な専門知識の習得まで、段階に応じて自分に合った学習をしている」

(保護者)「先生は、基礎基本を重視したきめ細かな指導を行っている」

教職員 A (95%)、生徒 A (81%)、保護者 A (80%)

②学習指導「授業時数を確保し、わかる授業・深く考えさせる授業に向けて授業改善や計画的な授業の展開を行っている。」

アンケートの質問：(生徒)「授業が検定への挑戦など工夫されていてわかりやすいと思う」

(保護者)「子どもは、検定への挑戦など授業が工夫されていてわかりやすいといっている」

教職員 A (88%)、生徒 A (82%)、保護者 B (72%)

- ・「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の実現に向けての授業改善について、それぞれの教員が取り組むように意識改革を図ったり、生徒による授業評価アンケートの実施による検証などから、教員は基礎基本の定着も含め、様々な工夫をして授業実践に取り組んでいると考えているが、教える側と教わる側に意識の差があるようである。従前のやり方や独りよがりの授業に陥らないよう、生徒をよく観察しよりよい授業を個々の教員が考えるとともに、G-OJT活動や「学びの変革」主任を核とした授業改善を今後さらに進めていくことが必要である。

④進路指導「進路情報を提供し、適切なアドバイスを行っている」

アンケートの質問：(生徒)「進路にかかわる資料が整っており、進路についての適切なアドバイスを受けている」

(保護者)「学校は進路情報を提供し、家庭との意思疎通を積極的に行っている」

教職員 A (89%)、生徒 A (79%)、保護者 B (70%)

- ・昨年度と比較して、教職員と生徒・保護者の評価についてほとんど差はない。
- ・教職員は9割をこえる者が肯定的評価をしているが、生徒および保護者の肯定的評価にギャップがある。
- ・学校としては、資料を整え、3年生の保護者には進路説明会などを実施するなどして適切にアドバイスする機会を設けてはいるが、生徒や保護者の願いと乖離している可能性がある。
- ・1年時から進路に関する取組を行っているが、系統性やこれらの取組についての詳細な情報が保護者に伝わっていないことも一因として考えられる。
- ・保護者は、早い段階から進路の情報を必要としているので、1年時より保護者との連携も密にしていくことや、学校の取組を丁寧に保護者に伝える工夫が必要ではないかと考えられる。
- ・平成30年度入学性より教育課程が大幅に変更になる。3年後の自分の進路を見据えて科

目選択等をさせる指導が必要である。

⑤特別活動「部活動により、学校活性化を図っている。」

アンケートの質問：(生徒)「部活動は活発で充実している」

(保護者)「部活動により、学校活性化を図っている。」

教職員 A (98%)、生徒 A (87%)、保護者 A (88%)

- ・部活動が、本校の活動の柱の一つであり、教職員も熱心に指導をしているが、生徒・保護者の部活動に対する意識も多様化しており、少なからず意識の差があるようである。今後は、生徒の状況等に応じて、より細やかな指導が必要とされる。

⑥学校図書館「図書に親しみ、読書の習慣をつけさせるための工夫を凝らした指導をしている」

アンケート質問；(生徒)「図書館は生徒が図書に親しみ、読書の習慣が身につくようにはたらきかけている」

(保護者)「図書館は生徒が図書に親しみ、読書の習慣が身につくようにはたらきかけている」

教職員 A (98)、生徒 A (78%)、保護者 A (78%)

- ・昨年度と比較して、全体的に評価が後退した。
- ・学校図書館の取組は、昨年度と同様の内容が継続されている。また、定期的に発行される「図書館だより」の配付だけでなく、「八商読書祭」「図書館でSHR」「図書館映画上映会」など多くの事業を行い熱心に活動してもらっているが、生徒・保護者へはまだまだ伝わり切れていないようである。今後も、これまでの図書館教育を継続していくとともに、学校図書館の活動の状況を保護者に伝えるためのさらなる取り組みを検討する必要がある。

⑦保健安全「課題を抱える生徒の早期発見に努め、生徒が相談できる体制づくりや研修を行っている」

アンケート質問：(生徒)「担任の先生をはじめ、学校の先生に気軽に相談することができる」

(保護者)「先生は、子どもの悩み等について気軽に相談に応じてくれる」

教職員 A (93%)、生徒 B (69%)、保護者 A (78%)

- ・教職員のほぼ全員が課題を抱える生徒の発見と対応ができていると評価しているが、生徒とは約30%、保護者とは約20%の肯定的評価に開きがある。
- ・原因として、相談を受けた教職員が時間をかけてゆっくりと丁寧な個別対応ができていないことで生徒や保護者に不満が残っている場合や、生徒の言葉による訴えがなく課題そのものに気付いていない場合もあると思われる。
- ・教職員は早期発見に努め相談体制や研修については整っていると評価しているが、面談週間の設定やソフト面で気軽に相談できる雰囲気も含め改善していく必要があるのではないかと考えられる。
- ・「学校をよりよくするためのアンケート」については、いじめ以外のものについても回答できるよう工夫していただいたが、依然として生徒の相談窓口的機能を有するまでには至っていない。
- ・教員の多忙や、事象の複雑化、相談する生徒のプライバシー等個人情報の保護等により情報共有の難しい面が増加している傾向がある。
- ・また、生徒がよく相談をする保健室（養護教諭）も、様々な課題を抱えた生徒の対応に追われ、生徒が相談を遠慮してしまう状況もある。